

「安心ください」こんな工場です

広報
なかがはま

発行所
長浜町役場
愛媛県喜多郡
印刷所愛媛協同印刷KK

号 外

黒田沖約三十万平方尺(約九万坪)の海面埋立ては工事請負契約が成立、ただいま東洋建設株式会社の手によって埋立てが開始されています。

第一期工事は、この約三十万平方尺を五つに区別したもののうち三工区までの約十一万九千平方尺(約三万六千坪)で、今年中、もしくは、来年早々までに完成し、引き続き工場の建設が始まる予定です。

誘致しようとしている昭和電工の炭素製品および耐火原料製造工場については先月の広報なかがはま(一六七号)で、そのあらましをお知らせしましたので今回は私たちが一番関心の深い「公害」の問題にメスを入れ、公害は出るのか出ないのかについて、科学的な視野の中で詳しく掘り下げてみることにしました。

公害はあるのか!!

その前に

公害があるのかないのかという、もっともたいせつなことの結論が、仮にデマやウワサによって決まってしまうと、ましてや私たちの町ばかりか南予全体にとっても、過疎か繁栄かの糸口となるべき力を握っている重大なことだからです。

結論は一つ、科学的な視野で調査と研究の結果を見つめ、その上で判断することこそ公正でありましょう。このことをご理解いただいた上で、これまで県と町が調査研究した電極工場と公害について説明します。

電極工場とは

まず原料、工程、エネルギー、廃出物などを見てみますと、……

●原料は

無煙炭(炭素を九〇％以上含む高純度の石炭。上ふくね質のよい石炭。もえるときけむりを出さず発熱量も多い。アメリカ、アフリカ、東南アジアなどから輸入されます)などから輸入されます。

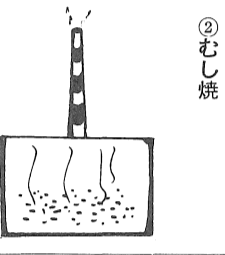
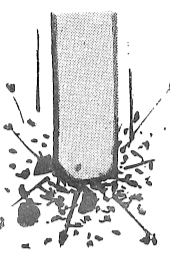
コークス(石炭を高熱でむしやきしてできた火力の強いもの。暖房用上好燃料として私たちの町でも使われています)

タール(石炭や木材などを乾溜したときでる黒色のねばねばした液体。塗料や薬品その他用途が多い)

●電極が

炭素電極ができるまでの作業工程を見てみますと、おもに次のようなことです。

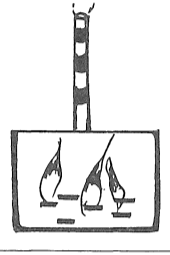
①原料の粉碎



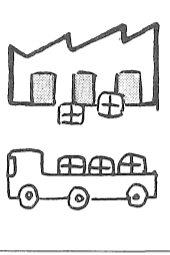
②むし焼
原料を電気炉に入れ、千四百度〜千五百度に熱し、水素、窒素、メタン、炭酸ガスなどの不要揮発成分を揮発させる。



③混成
粉状のむし焼された原料に粘結剤をまぜてプレス成型する。



④焼成
焼成炉に入れて約三週間焼き固める。この炉には燃料として一日約二〇トンの重油を使う。



⑤機械加工—仕上げ荷造り出荷

⑥使用するエネルギー
電力(むし焼するため) 重油(焼成するため) 水(製品や機械を冷やすため) 以上のとおりです。さて、次にいよいよこのことから公害が出るかどうかの判断です。

なにかいい理由……

その理由……

公害が出るという理由、以上述べた原料、工程、エネルギーなどからおきける排出物からということになります。そこでこの中から公害となる恐れのあるものを拾ってみたい。

この場合、公害には、まず第一に排気ガスによる大気汚染、第二に粉じん、第三に排出による海水の汚濁、第四に騒音、以上四つがあげられます。そこでまず第一に――

排気ガス



排気ガスとして、この場合まず心配されるのが亜硫酸ガス。炭素電池ができるまでの工程の④のところで焼成炉の燃料となる重油から発生することになります。しかし安心ください。この量は、火力発電所が一日五千ト(十積みタンクに五百台分)を使うのにくらべ、ここでは一日わずか約二十ト(同じタンクで二台分)年間七千ト(火力発電所の一日半たらの量)という、ごく少量です。そしてこのため排出される亜硫酸ガスは政府の定めている公害基準(これ以上発生したら人体に害をおよぼすからダメだ)という限界の量である。二・二PPMに比べ、今までの測定された一番多い時でもわずかこの十五分の一、〇・〇一三PPMの着地濃度です。しかも普通のもので、すくなくとも少ないです。ですから全く問題にすることはありません。



粉じん

次には、無煙炭を砕いて粉にするので粉じんが出るのは、一といえることがありますが、昔は装置などが幼稚なものであったため、付近の家々の洗たく物や汚れるというように、現在では粉じんそのものが貴重な原料であるため、技術の進歩も加わってバックフィルターという集じん装置で、その九十九割以上を吸収するようになっており、工場周辺への影響はほとんど出ておりません。



排水

次に排水ですが、これは製品や機械を冷やすため、つまり冷却水としてだけ使用するもので、薬品とか原料物のカスなどが混じることなどはほとんどなく、しかも排水には、ろ過装置を使い、普通温度に冷やして排水するものですが、汚濁のおこるはずがありません。



騒音

最後に騒音はどうでしょうか。これも製造工程で示すように、原料を焼くことが中心です。物をたたかいたり、うなる音が出るわけでもない。工場からある一定の距離を持った一般生活地帯へさしきわりの音が出るような大きな音響を出すことはありません。

研究は続けられている

以上がこれまで調査研究された電極工場についての概要ですが、これは単に視察して会社の説明をう呑みしただけでは、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。

デマも公害

それにもかかわらず、あの一帯には、恐るべき公害が長浜町へ入り込んできるといわれる。人々の心に配のタネをまきつけている。このように、いろいろな噂が流れている。この噂が、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。

公害とは?

まず、公害についての定義です。どのような状態が公害か。公害とは、人間の生活に支障を及ぼすような状態をいいます。公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。

公害世論の厳しさ

さいわいにして長浜町は近代工業にとつての処女地です。先進地に見られるような汚れた上にさらに汚れるような不幸がまずないということがあります。つまりこれからの時期が大へんというタイミングであったということがあります。今日のこの厳しさを、公害世論の厳しさの中で生まれようとしている企業です。

公害防止協定 結ばない企業は「ノー」

すべて危険を予想されるものには二重三重の危険防止装置が必要であるように公害防止協定は、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。

公害防止協定は、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。公害防止協定は、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。

公害防止協定は、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。公害防止協定は、公害の発生を未然に防止するに必要十分な調査研究は行われておりません。